

美術館のあそびかた ～創作ひろば～

美術館とは作品を見に来るところ、そう思われている方も少なくないのではないのでしょうか。ましてやお子さんのいるご家庭では、鑑賞だけでは子どものパワーがあまってしまうと心配され、美術館に連れて来ることを敬遠されているかもしれません。しかし、美術館では鑑賞という切り口だけではなく、実際に作品をつくってみるという体験からも美術に親しんでもらおうと、夏休みと三重の子どもたち展の期間中の週末、中学生以下の子どもたちを対象に「創作ひろば」というイベントを行っています。

この夏には4つのプログラムを実施、100名を超える子どもたちが参加してくれました。その1つ、「新たなまちをつかったろ」では子どもたちの創作意欲や自由な発想に驚かされることしばしばありました。自分の家をつくり、それを並べてまちをつくるという内容だったのですが、こちらで準備したものは大きな白い紙に一本の青い線(川に見たててもらうことを願って準備)を引いたフィールドと材料のみ。子どもたちにスタッフから簡単な言葉がけをするだけで、みんな思い思いの材料を取ってきてどどん家をつくりあげ、できたものをフィールドの上に置けば完成・・・と単純にはいきません。そこから子どもたちのパワーが溢れ出します。家だけだとまちを移動できないからとフィールド中に線路を描き出す子、線路にはやっぱり電車がいるよねと線路に電車を走らせる子、一方では自然がないからといって木をつくったり、みんなの食べ物といって巨大にじんを植える子も(!)。このように挙げていくとときりがなく子どもたちの発想は豊かで、いくつもの物語と一緒に素晴らしいまちに発展していきました。

イベントの日なら、やってきたその日・その場ですぐに参加できる「創作ひろば」。スタッフも常駐していますので安心してやってきてください。またお子さん連れではない方も、気軽に体験室をのぞいてみてください。一生懸命に作品をつくっている子どもの姿は、見ているだけでいろいろなパワーを与えてくれるかもしれませんよ。(NK)

※今年度の詳細につきましては、三重の子どもたち展の記事をご覧ください。



制作風景



まちも大きくなりました



線路を電車が走ります